

2017年3月期 決算説明会



2017年5月22日
本州化学工業株式会社
(証券コード：4115)

目 次

1. 会社概要
2. 2017年3月期連結実績
3. 2018年3月期連結業績見通し

1. 会社概要

本州化学工業の紹介

創業 1914 (大正3) 年11月 由良精工合資会社を設立
※国内初のベンゼン精留装置を完成させ合成染料アニリンの製造を始める。
※2014年に創業100年を迎える。

資本金 15億50万円

主要株主 三井物産株式会社 (26.93%)
三井化学株式会社 (26.93%)

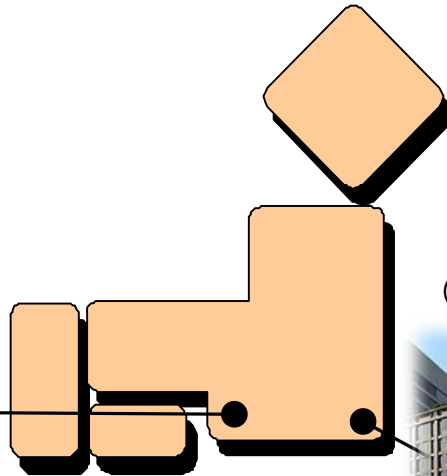


ベンゼン精留装置
(近代化産業遺産認定2009年)

事業所



和歌山工場／総合研究所
(和歌山県和歌山市)







本店
(東京都中央区)



Hi-Bis
(ザクセン・アナルト州)



当社のコア事業

コア事業	製品	主な用途
クレゾール誘導品	2,3,6-TMP m-Cresol Purified BHT	Vitamin E原料（飼料用） 農薬、電子材料 酸化防止剤 
ビフェノール	Biphenol	スーパーエンブラ樹脂（SEP）モノマー →液晶ポリマー（LCP） →ポリフェニルスルホン（PPSU） 
電子材料	TrisP-PA 2,3,5-TMP 等	フォトレジスト用添加剤 フォトレジスト用樹脂 （ノボラック樹脂） 
特殊ビスフェノール	BisP-TMC Bis-Z BisOC-FL 等	特殊ポリカーボネート樹脂 特殊エポキシ樹脂 

2. 2017年3月期 連結実績

2017年3月期 連結実績

〈単位：億円〉

	2016年 3月期	2017年 3月期	対前期比	<参考> 2016.11.8発表
売上高	184.2	173.7	▲5.7%	180.0
営業利益	19.8	20.4	2.9%	16.5
経常利益	19.1	20.0	4.9%	15.5
当期純利益	7.5	9.8	31.4%	7.0

★連結業績修正発表（2017.5.12）

固定費の削減および合理化、ユーロ高の為替差により、前回発表（2016.11.8）より営業利益、経常利益、当期純利益が上回った。

2017年3月期 連結実績

◎ 事業環境

I. 経済動向

- ・国内経済は雇用・所得環境の改善により緩やかな回復傾向が見られたが、上半期に対ドル為替レートで円高が継続したこともあり力強さを欠いた。
- ・世界経済は英国のEU離脱や米国の金融政策の動向が懸念されたものの、米国や欧州の緩やかな景気回復により景況感は改善。

II. 当社グループの事業環境

- ・自動車用特殊ビスフェノールは好調に推移。半導体・フラットパネルディスプレイ（FPD）関連の需要も回復傾向。
- ・クレゾール誘導品は市況安や円高の影響を受け、また、成形材・光学用特殊ビスフェノールは、一部で需要減速等が続き、厳しい事業環境が継続。

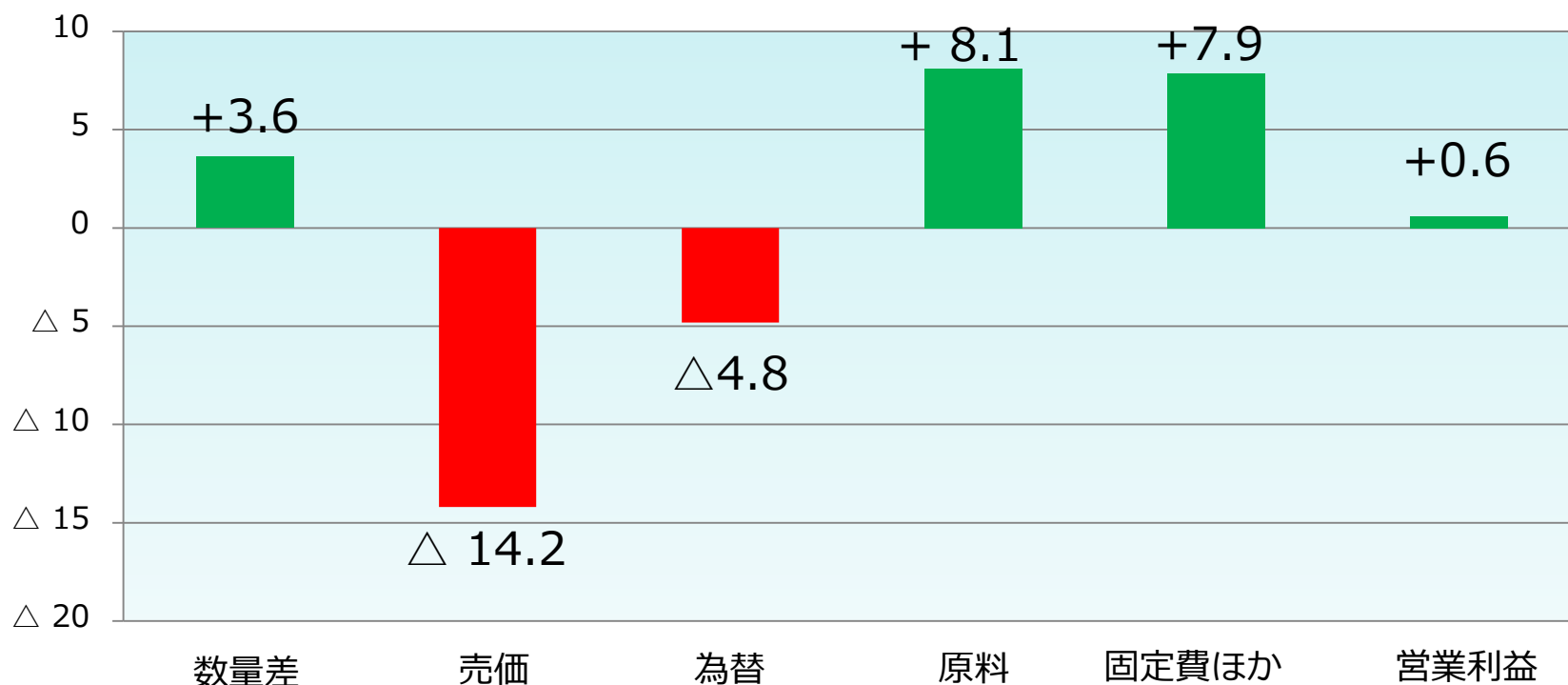
営業利益増減分析

【対前年同期比較】

(2016年3月期 対 2017年3月期)

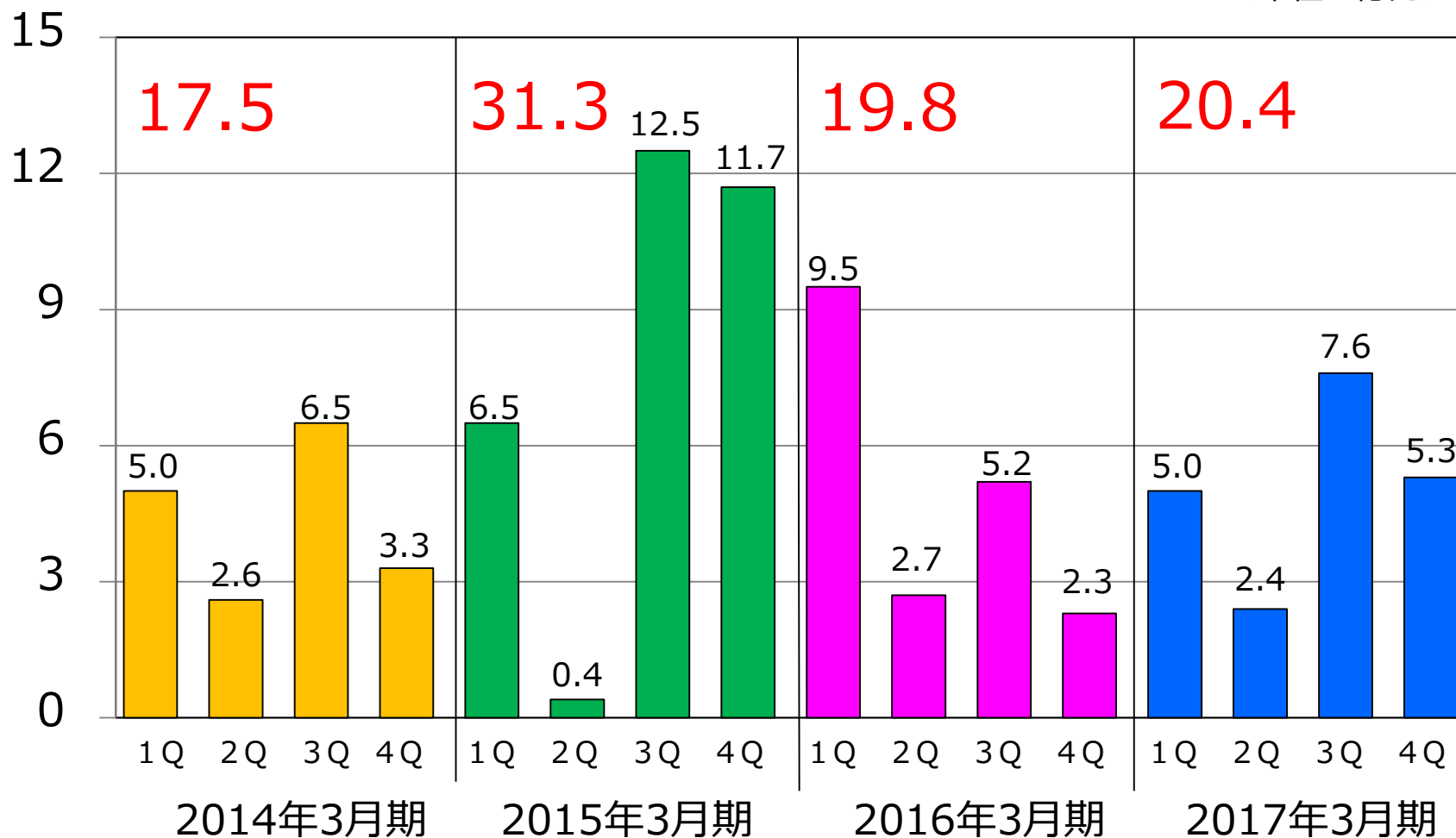
19.8億円 ⇒ 20.4億円 +0.6億円

〈単位：億円〉



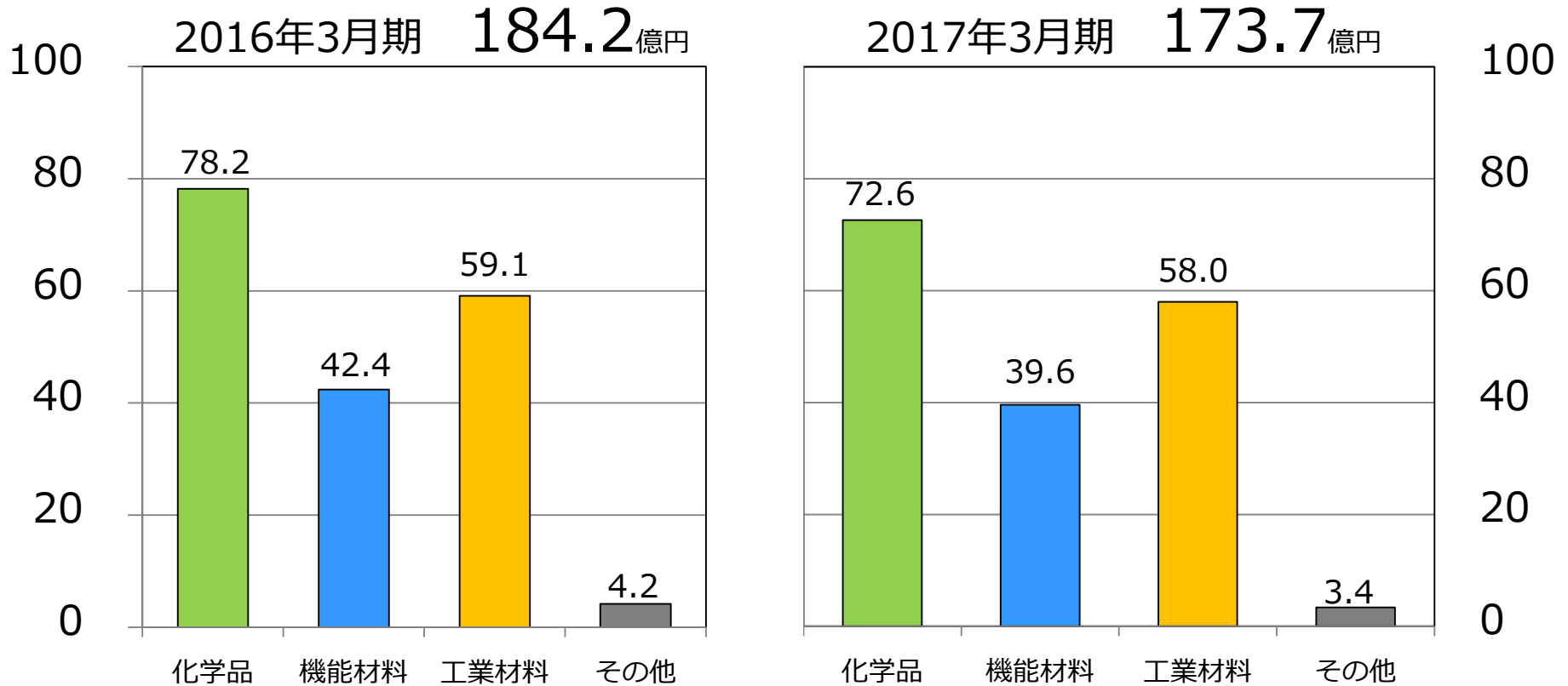
四半期別営業利益推移（連結）

<単位：億円>



セグメント別売上高

<単位：億円>



【2016年3月期／2017年3月期比較】

化学品 7.2%減 / 機能材料 6.6%減 / 工業材料 2.0%減

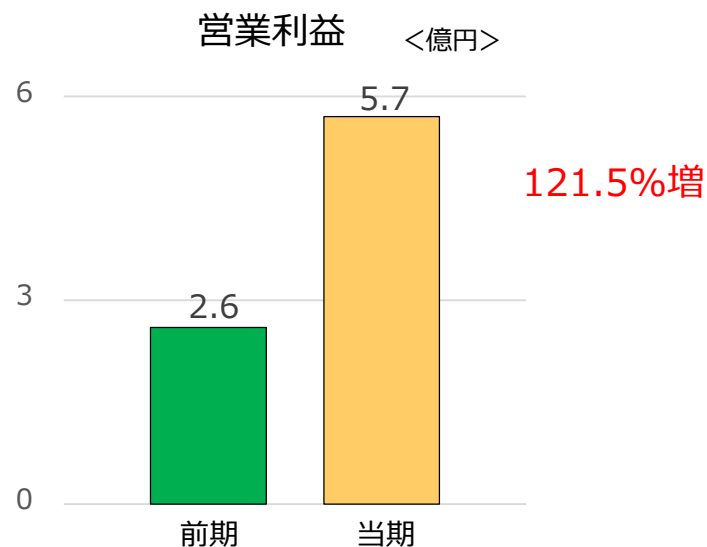
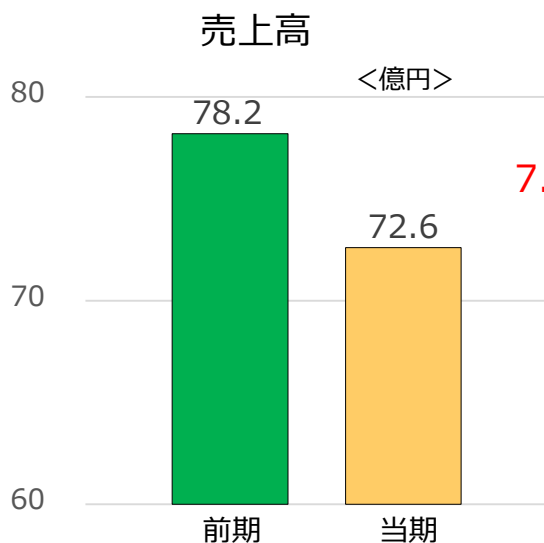
セグメント別事業概況 <化学品部門>

○クレゾール誘導品

販売数量は増加しているものの、競合激化による市況の下落及び円高の影響等から販売価格が低迷し、売上高はほぼ前期並みであったが、コスト削減効果に加え、ナフサ市況下落に伴う原料値下がりもあり大幅に利益改善。

○ビフェノール

情報通信機器市場の低迷による液晶ポリマー（LCP）向けの販売減に加え、ポリフェニルサルホン（PPSU）向けについても需要が堅調であるものの、円高による販売価格の低迷や顧客での生産タイミングのズレ等により、売上高は前期を下回ったが、コスト削減効果に加えベンゼン市況下落に伴う原料値下がりもあり増益。



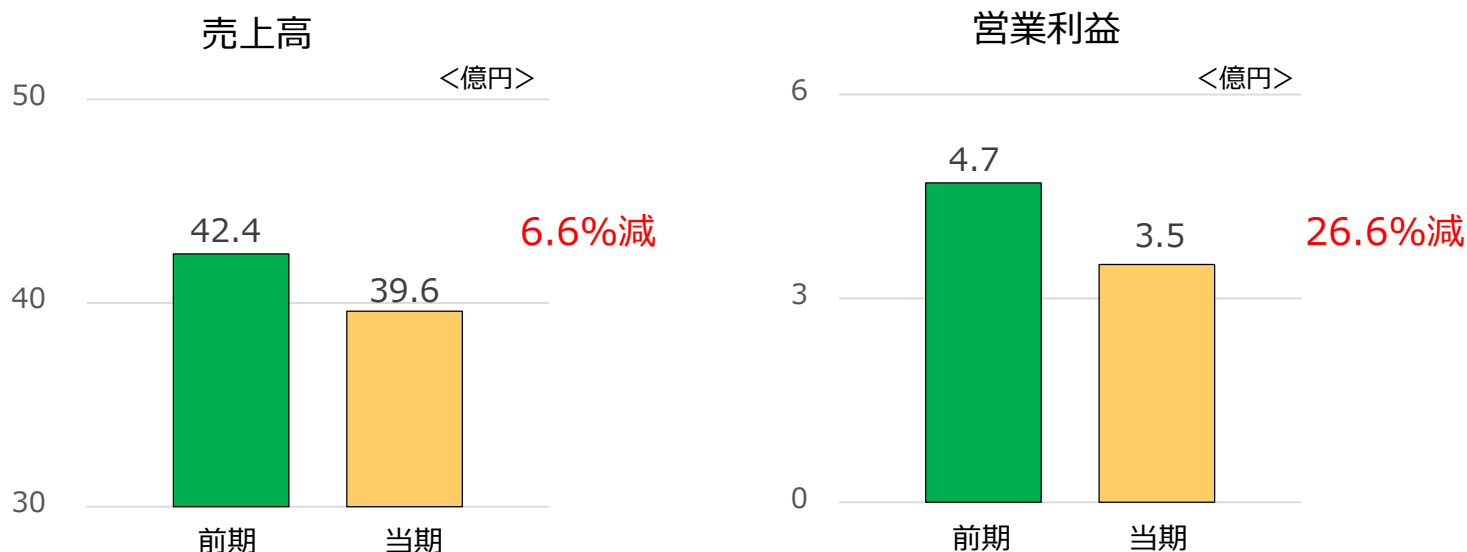
セグメント別事業概況 <機能材料部門>

○電子材料

半導体市場において、中国スマホメーカー向けの需要が堅調に転じ、フラットパネルディスプレイ（FPD）市場についても第4四半期以降は需要が回復しており、増収増益となった。

○特殊ビスフェノール（自動車部品用途以外・光学・電子部品用途向け）

成形材、光学用途の一部でサプライチェーンにおける競合激化や新規案件の立上げ遅れが発生したため、大幅な減収減益となった。



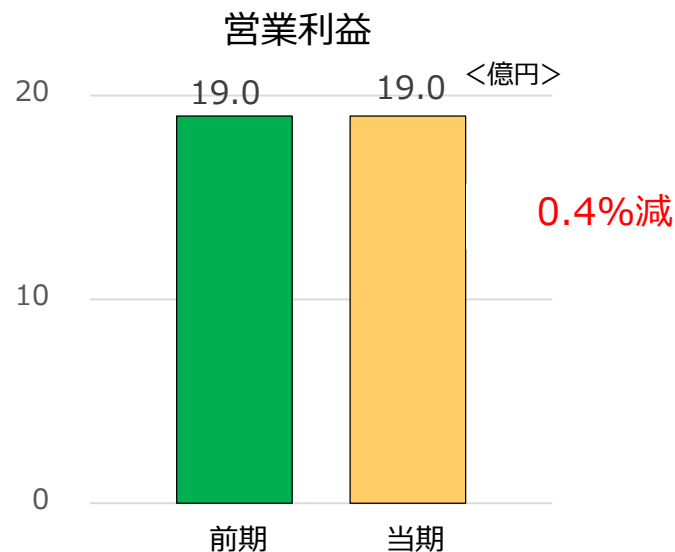
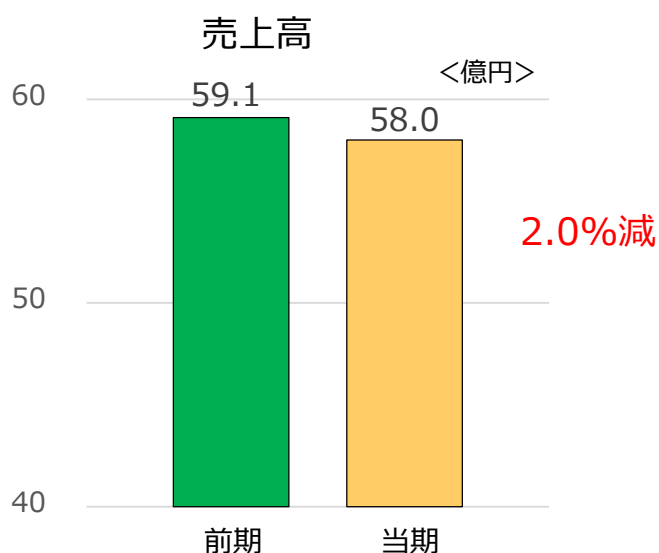
セグメント別事業概況 <工業材料部門>

○特殊ビスフェノール (自動車部品用途向け)

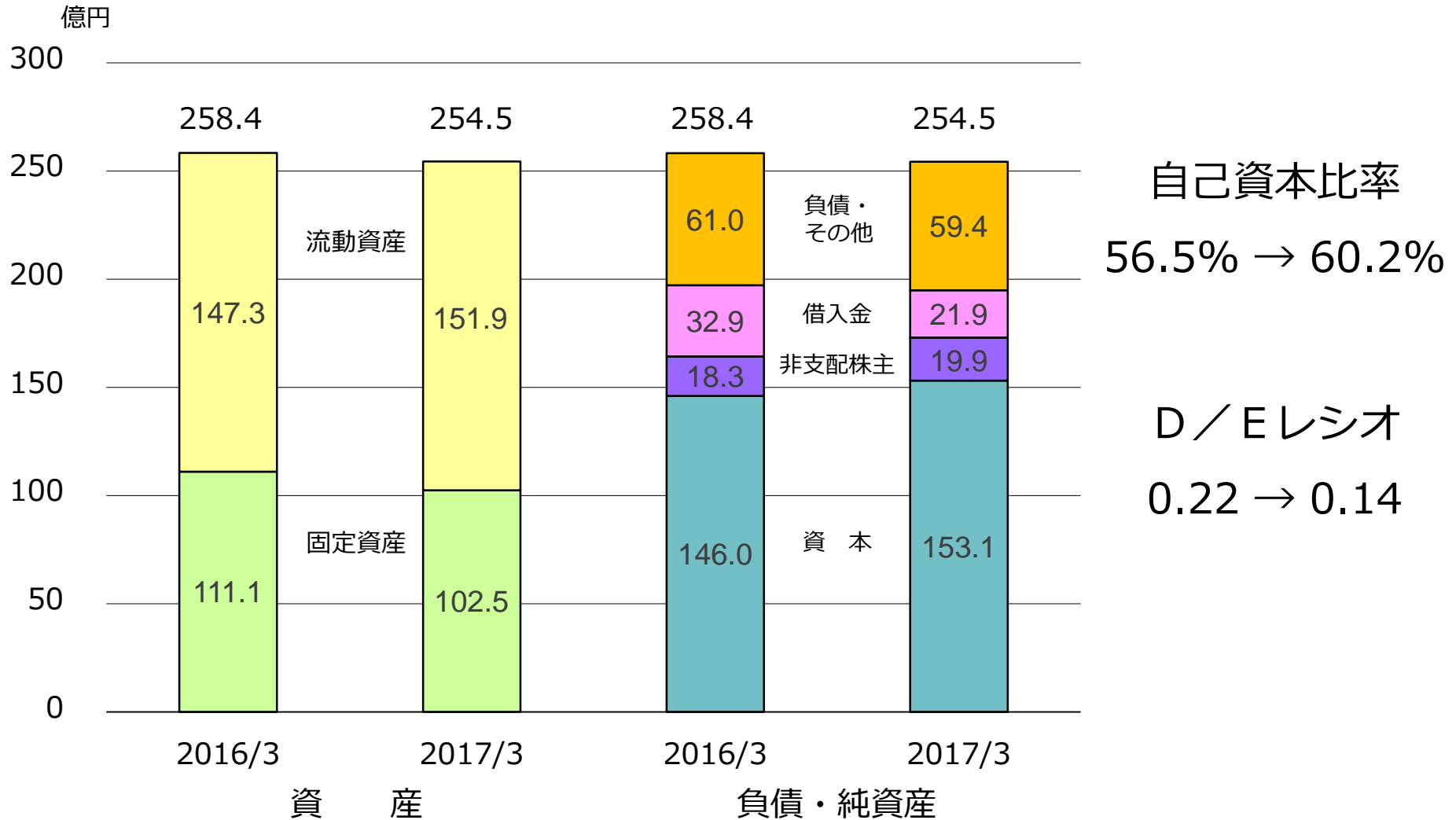
引続き需要は好調に推移したが、為替換算等の影響により、売上高はほぼ前期並み。

○受託品

受注数量が減少したため、売上高は前期を下回った。



連結貸借対照表



連結キャッシュフロー

〈単位：億円〉

	2016年3月期	2017年3月期	対前期比
営業活動	22.9	33.1	10.1
投資活動	▲6.8	▲8.8	▲2.0
フリーキャッシュフロー	16.1	24.2	8.0
財務活動	▲16.0	▲14.7	1.2
換算差額	0.0	▲0.7	▲0.7
現預金増減	0.2	8.7	8.5

3. 2018年3月期 連結業績見通し

2018年3月期 連結業績見通し

<単位：億円>

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予算	対前期比	
			対前期比	対前期比
売上高	173.7	185.0	11.2	6.5%
営業利益	20.4	21.0	0.5	2.6%
経常利益	20.0	20.0	0.0	△0.2%
当期純利益	9.8	10.0	0.1	1.3%

諸 元

◎ 予想される事業環境

- ・ 国内景気は緩やかに回復。海外景気は米国・欧州を中心に、全体としては緩やかに回復するも、中国・新興国の景気下振れリスクあり。
- ・ 為替は、米国の金融政策の動向、EU問題の影響等により不透明。
- ・ 原油価格は、OPECの協調減産等による上昇懸念あり。

		諸 元	(参考) 変動による影響	
			変動額	損益への影響
為替	ドル	110円	1円	±1,000万円
	ユーロ	115円	1円	±1,100万円
原料	ナフサ	41,000円/kg	1,000円	±3,000万円
	ベンゼン	90円/kg	1円	±1,000万円

当社の事業環境

○ クレゾール誘導品

市場での競争激化、市況低迷は継続。

○ ビフェノール

L C P 需要は概ね横ばい。P P S U は将来的に高い成長を予測。

○ 電子材料

半導体、F P D の市場動向は総じて回復傾向。

○ 特殊ビスフェノール

光学用は需要拡大、自動車用は引続き好調。

セグメント別事業概況 <化学品部門>

○クレゾール誘導品

- ・ 基盤事業として安定的拡大を目指す。

<トリメチルフェノール>

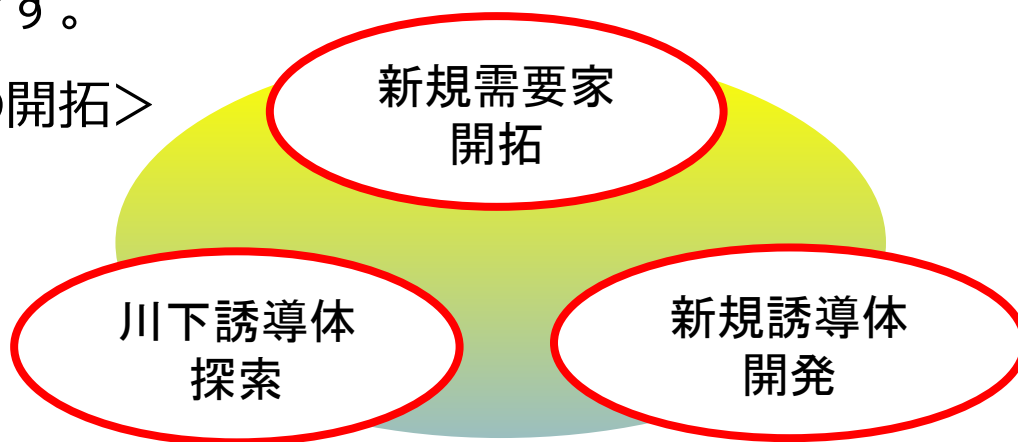
飼料添加剤ビタミンEの安定需要を背景とし、欧州・中国向け販売強化。数量拡大を目指す。

<BHT>

幅広い需要分野を持つ酸化防止剤BHTの国内唯一のメーカーとして、安定供給、販売拡大を目指す。

<新規需要家・新規用途の開拓>

販売先・誘導品の
ラインナップを増やし、
より強固な事業を目指す。



セグメント別事業概況 <化学品部門>

○ビフェノール

- ・スーパーエンジニアリングプラスチック素材としての成長を目指す。

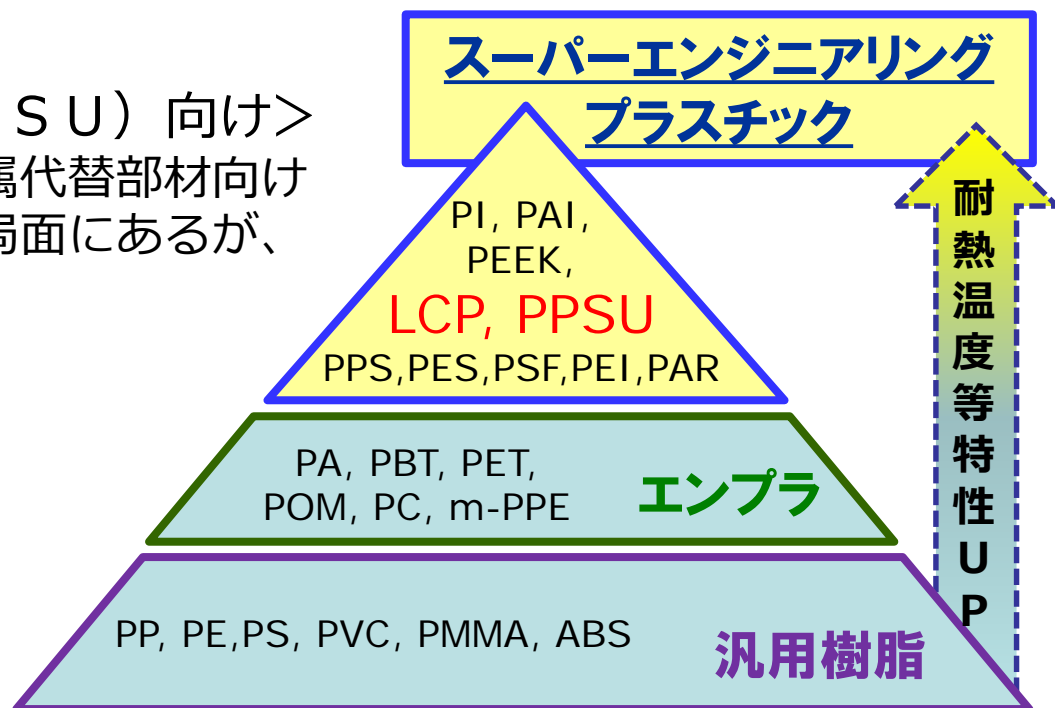
<液晶ポリマー（LCP）向け>

情報端末(パソコン・スマートフォン)需要は横ばいが続く。
自動車の電子化の流れから、車載部品への採用により、
将来的な需要増が期待される。

<ポリフェニルスルホン（PPSU）向け>

耐熱性・耐薬品性に優れ、金属代替部材向け
に需要伸長。現在、需要調整局面にあるが、
将来的に高成長が予想される。

ビフェノール全体としては、
将来的な数量増に期待。
2017年度は昨年比10%増の
販売を見込む。



セグメント別事業概況 <機能材料部門>

○電子材料

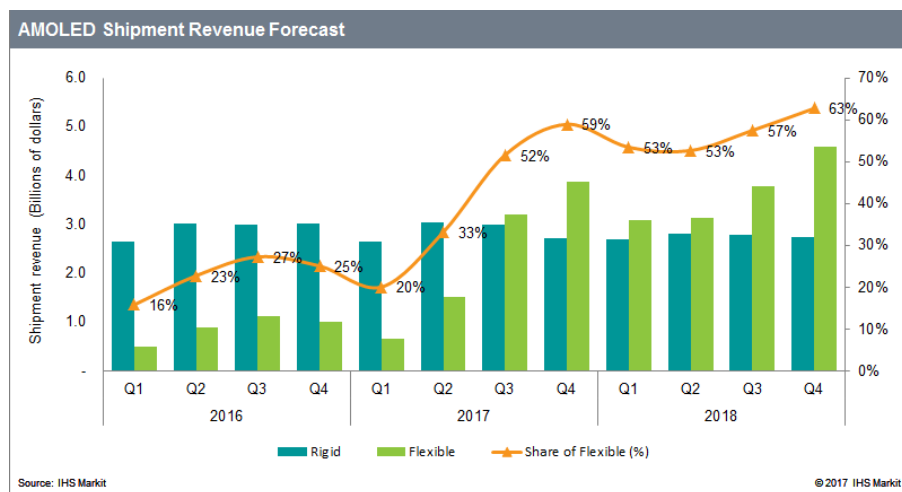
◆ 市場動向

半導体：今年度はスマホの新製品投入や中価格中機能品の増販もあり、昨年後半以降の緩やかな回復基調が確り継続するものと予測。

F P D：半導体より遅れ気味ではあるが、中国増設や有機 E L 移行が好材料となって、当面の需要は昨年度対比、増加が期待できる。

◆ 業績見通し

半導体回復や、有機 E L 移行に伴う高機能品へのシフトを軸に既存領域での増収増益を見込むと共に、昨年度停滞気味であった新製品立ち上げの目途もつける。



出典: IHS TECHNOLOGY

セグメント別事業概況 <機能材料部門>

○特殊ビスフェノール (自動車部品用途以外・光学・電子部品用途向け)

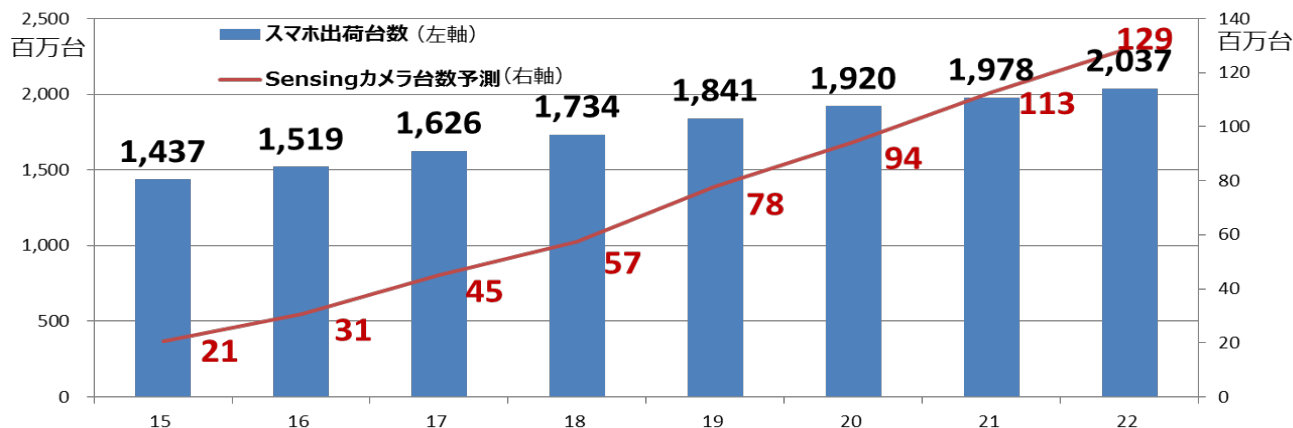
◆市場動向

光学レンズ：スマートフォン向はデュアルレンズ化、虹彩認証等の進展により成長継続。
自動運転導入による自動車向け需要増にも期待。

成形材等：一部製品で競争激化による価格低下、技術革新による需要減など厳しい環境が続くが、耐熱性・表面硬度等当社製品の特徴を活かした用途開発が進行中。

◆業績見通し

下期に於ける次世代光学レンズ材料の本格事業化により、売上高・営業利益ともに前年対比増加の見込み。光学レンズ材料以外では、電気電子向け部材など高付加価値分野と自動車材料など成長性の高い領域に軸足を移動してゆく。



セグメント別事業概況 <工業材料部門>

○特殊ビスフェノール（自動車部品用途向け）

◆市場動向

自動車部品の技術革新より長期的には使用部位・数量が変化する可能性あるが、当面の需要はValue-Chainでのシェア拡大等により引続き好調に推移。

◆業績見通し

上記見通しを受け、ハイビス社及び和歌山工場とも高稼働を維持、特に和歌山工場出荷分は昨年度比倍増を見込む。



2017年度重点課題

1. 既存事業の強化・拡大
2. 市場・顧客志向強化
3. 新規事業創出・新規製品上市加速
4. 基盤の積極的強化
5. 投下資源の拡充

新規事業創出・新規製品上市加速

新規事業創出

- 市場・顧客志向に基づき、成長4市場に対し、非フェノール誘導品および川下製品の開発を行い市場評価を継続する。
- 具体的には、SEPモノマー及びSEPオリゴマー・ワニスを開発し市場評価を受ける。
- 対象SEPは特殊PI、特殊PC、PPSU、PES、PEEK樹脂等。

新規製品開発・上市

既存事業周辺製品として、既存顧客を中心に、フェノール誘導品および非フェノール誘導品を開発・上市する。

《成長4市場》

モビリティ

自動車を主とした
輸送機向け材料

ライフサイエンス

QOL向上材料、医療機器材料、
医薬品原料

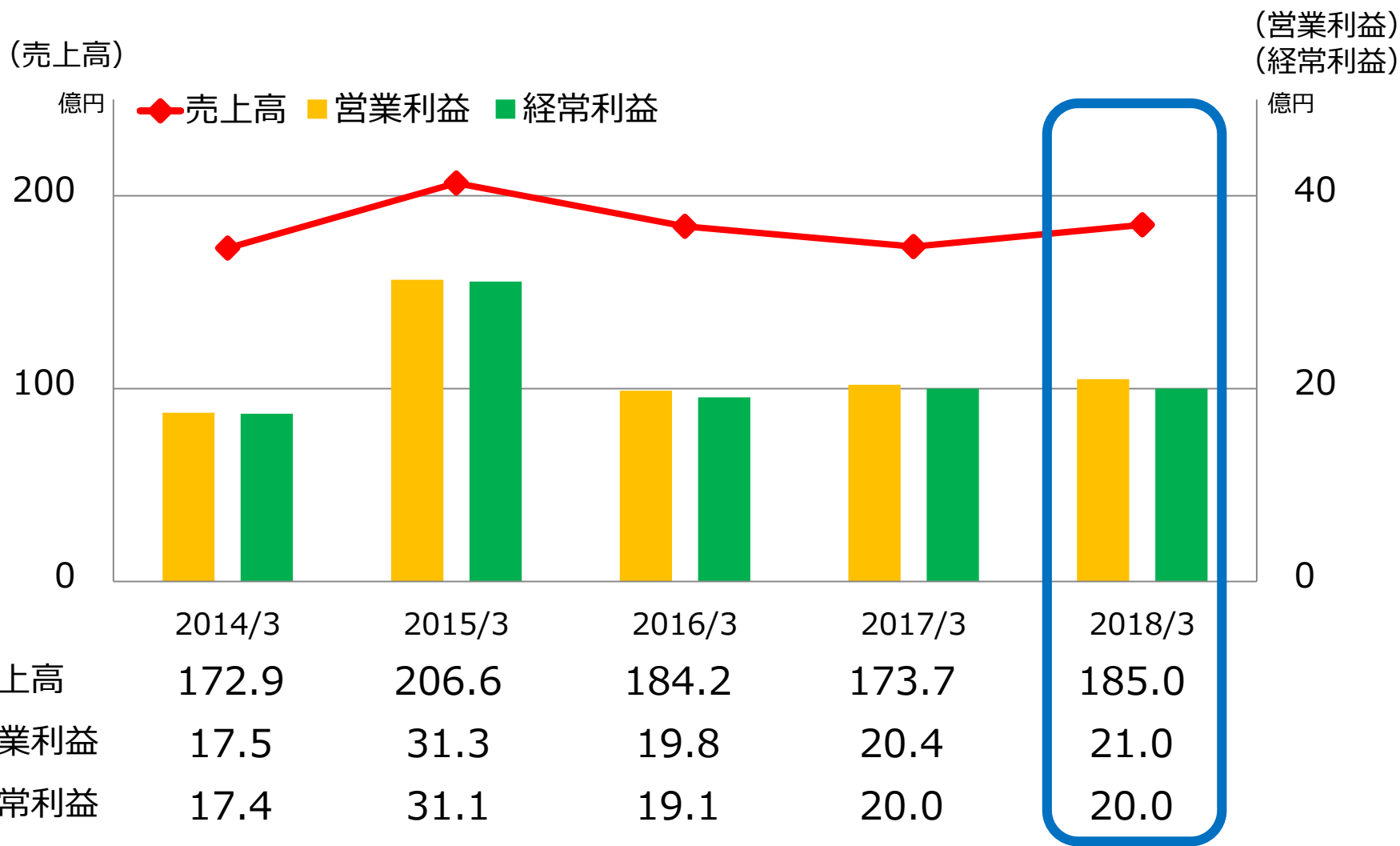
環境・エネルギー

エネルギー・省エネ機器向け材
料、環境負荷低減材料

エレクトロニクス

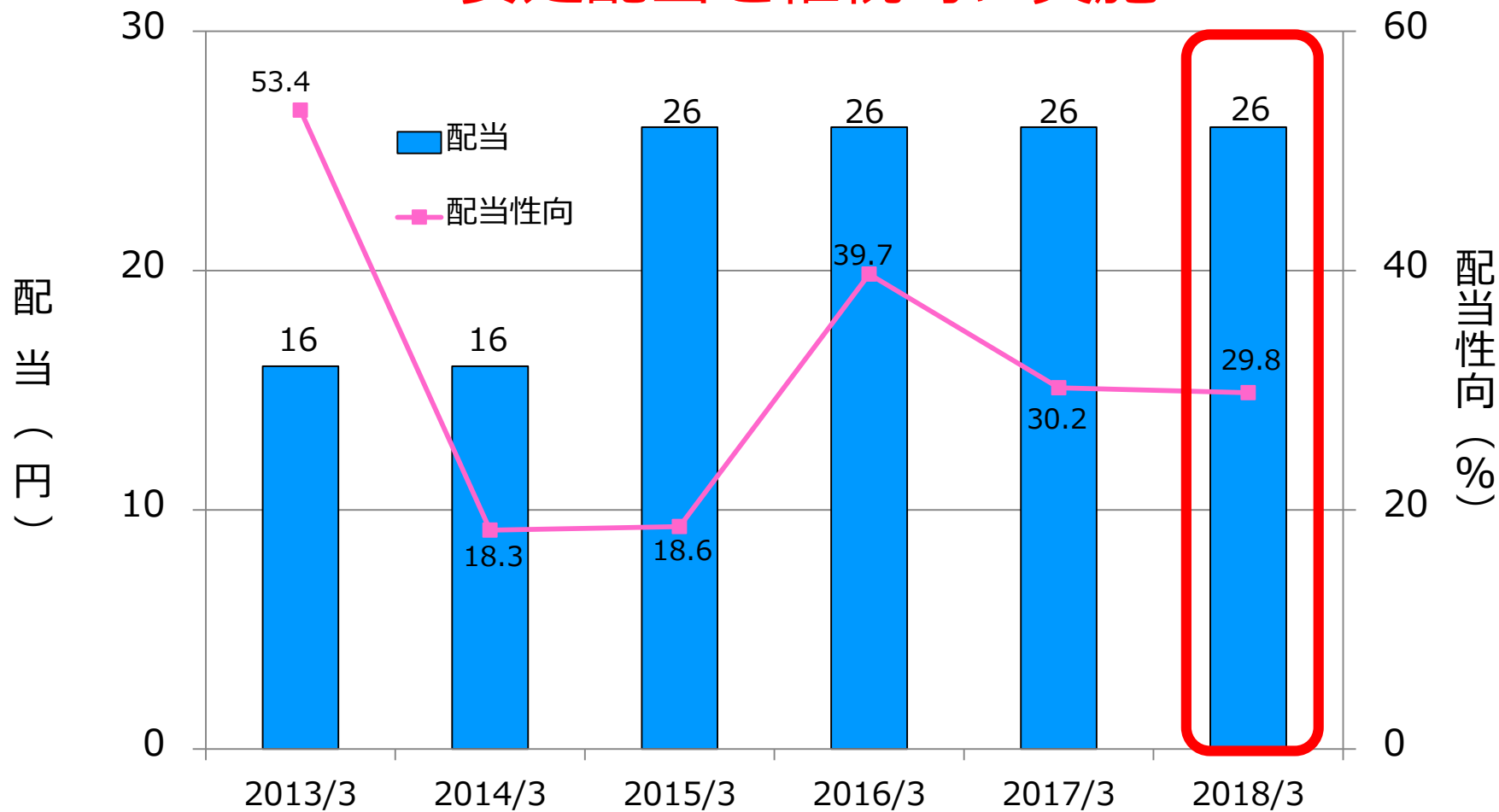
半導体、FPD等電子機器
向けの構成・プロセス材料

売上高／営業利益／経常利益推移（連結）



配当実績と2018年3月期見込み

安定配当を継続的に実施



※記念配当4円含む

中間10円/期末16円 (予定)

終 わ り

ご清聴ありがとうございました。

<お問合せ先>

本州化学工業株式会社 人事総務部

E-mail : ir@honshuchemical.co.jp

本資料における将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用下さい。